

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とは？
5歳児3学期1月の姿から

「どうしたら氷ができるかな？」

氷ができる！
ぶ厚いよ！



とても寒い
冬の日の朝

氷を作りたい！
入れ物は
どうしようかな？

氷に
花も入れる？

外の
たらいに
水を入れて
おいたら？



次の日…

花の入った
氷ができた！



ペットボトルの
水は、氷に
なっていない…



なんでだろう？
いろいろ試して、
調べてみよう！



数日間、氷の実験をしてみよう…



フライパンも
使ってみよう？



ニュースの
天気予報で、
「今日は最低
気温が5度」と
言っていたよ。

屋上の
気温を
調べて
みたよ



カレンダーに、
気温と氷が
できた日を
書いておこう



氷はとっても
寒い日に
できるんだね。



見て！
こんなに
大きな氷が
できたよ。



氷ができるのは
6℃より寒い日
なんだって。

幼児期は心と体が大きく成長するときです。まだ幼い子どもたちも、小学校入学前頃になると「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（P8,9参照）」が見られるようになります。これは実際の園生活では、どのような姿なのでしょう？

左記の5歳児の1月の幼児の姿をとおして、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を見てみましょう。



左記の中で見られた

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（P8～9参照）

●社会生活とのかかわり

テレビの天気予報から、気温と氷のでき方との関係に疑問をもった子どもたちは、調べた気温を園でカレンダーに記載し、変化を見たり友達に伝えたりするようになりました。

●思考力の芽生え

氷への興味や関心から、氷作りのために友達と一緒に試したり工夫したりする中で、氷の性質を知り、氷が張りやすい場所や容器、さらに気温等の諸条件にも興味や関心が広がりました。また、友達と考えを伝え合う中で、様々な考えを知り、いろいろな面から考えられるようになりました。

●自然とのかかわり・生命尊重

氷を直接見たり触れたりし、冷たさや不思議さ、おもしろさなどを感じ、氷の性質を知る機会となりました。さらに「氷を作ってみよう」という願いから、気温等の条件にも関心をもつようになるなど、好奇心や探求心を育むことにつながりました。

●言葉による伝え合い

氷に関することが子どもたちの共通の話題となり、疑問に思ったこと、気付いたことや考えたことを子ども同士が言葉で伝え合い、情報を共有し、学級全体の学びとなりました。

このように、遊びや生活の中で、疑問の解決に向けて友達と考えを出し合いながら試したり工夫したりする経験は、探求心を育み、主体的に問題を解決しようとする姿につながります。幼児期の経験は、実感を伴った知識の獲得と理解につながるとともに、小学校以降の生活や学習の基盤となっていきます。